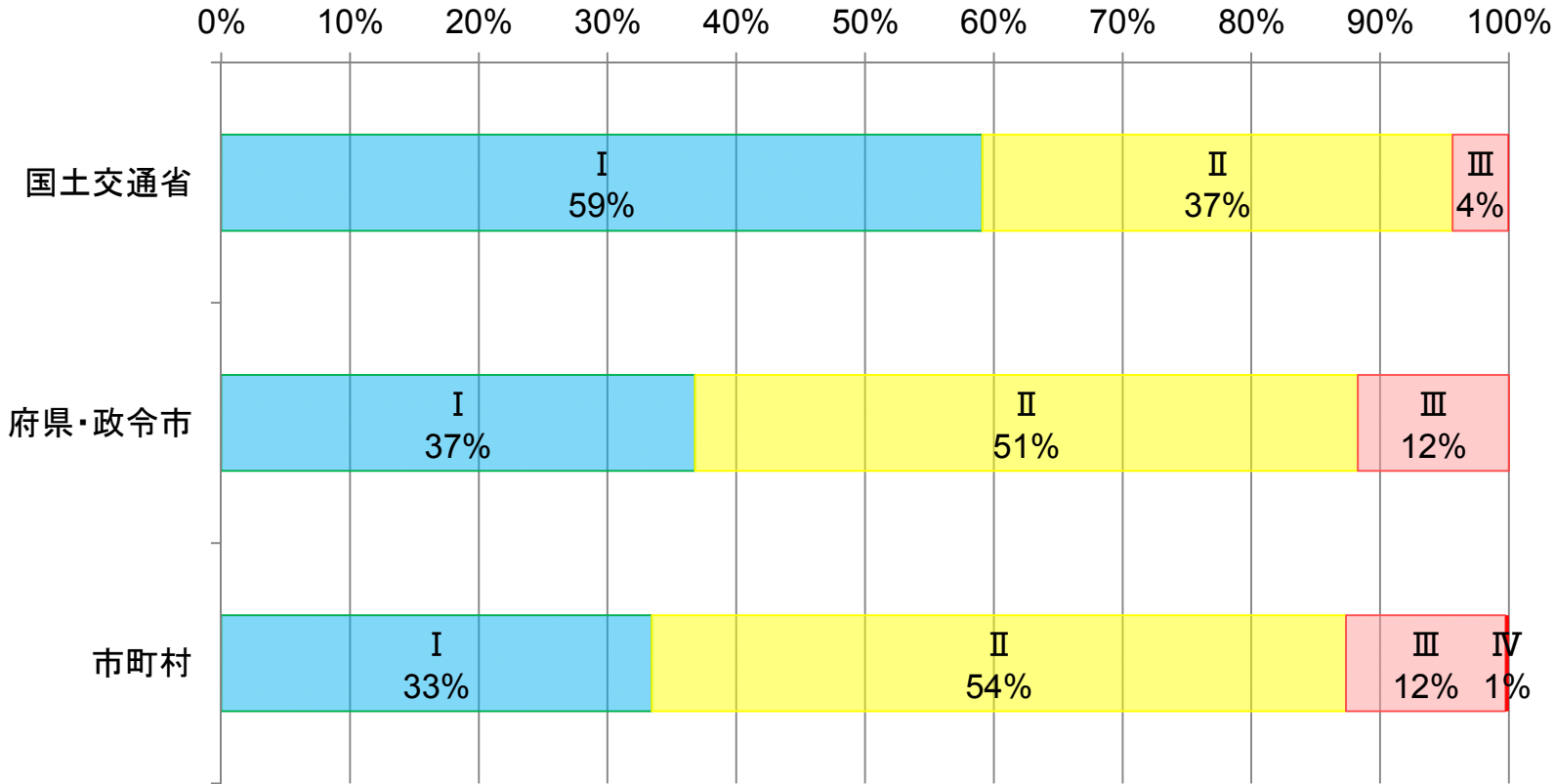


近畿管内の点検結果について（平成26・27年度）

○橋梁

■H26・27の点検結果については、自治体では損傷程度Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの割合が高い傾向



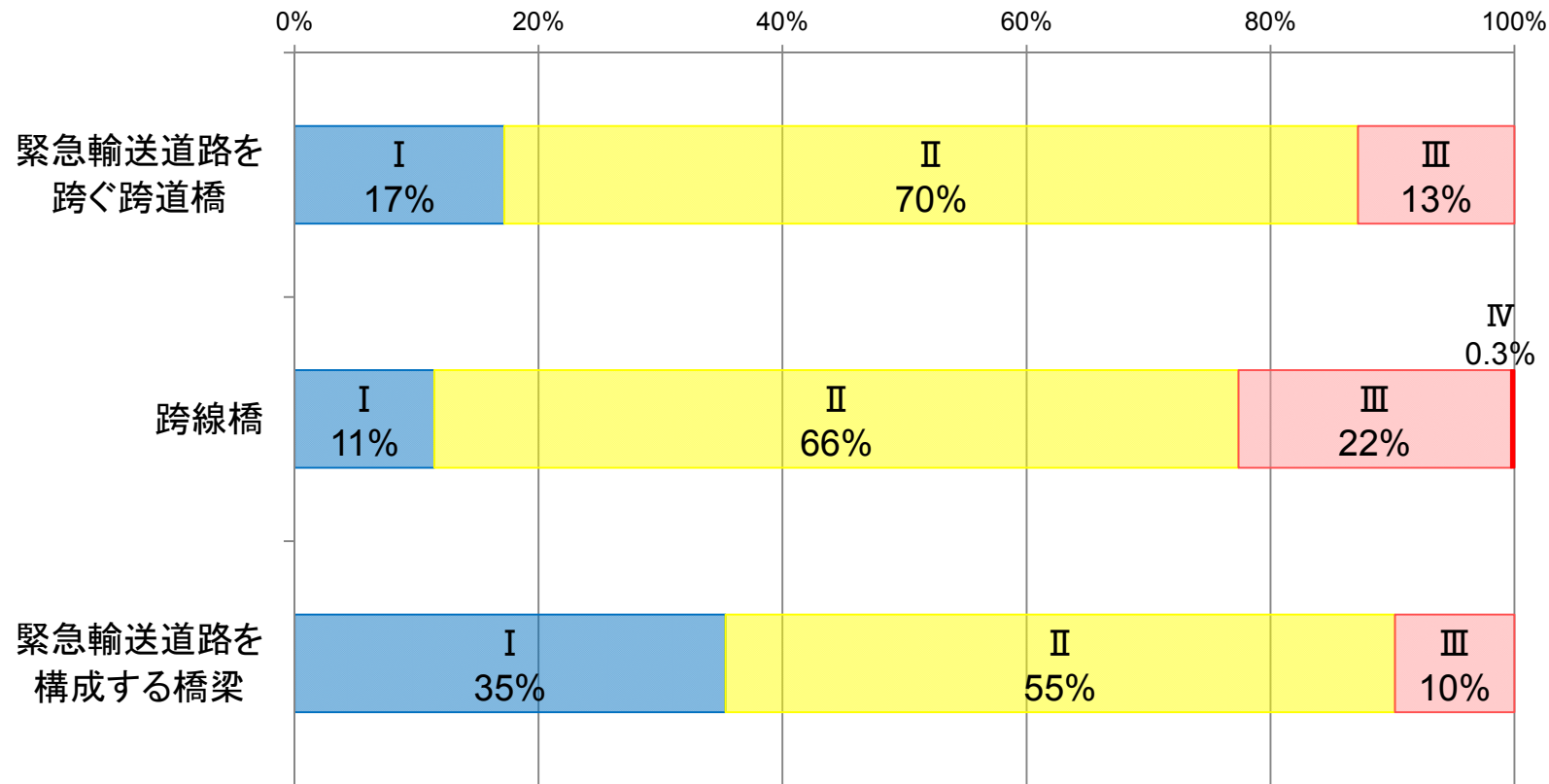
・予防保全段階の判定区分Ⅱが13,266橋、早期措置段階の判定区分Ⅲが2,962橋、緊急措置段階の判定区分Ⅳが45橋。

・補修ストックが増大、今後補修・補強にも力を入れていく必要あり。

近畿管内の点検結果について（平成26・27 年度）

○最優先で点検すべき橋梁

【近畿 全道路管理者分】



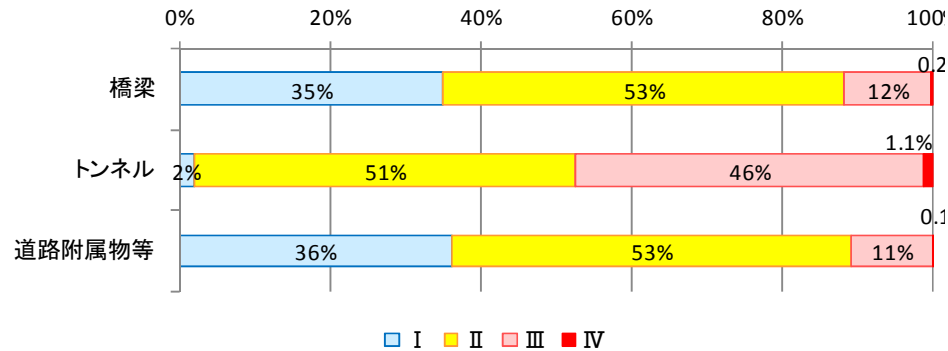
跨線橋の判定区分Ⅲの割合が高い！！

近畿管内の点検結果について（平成26・27 年度）

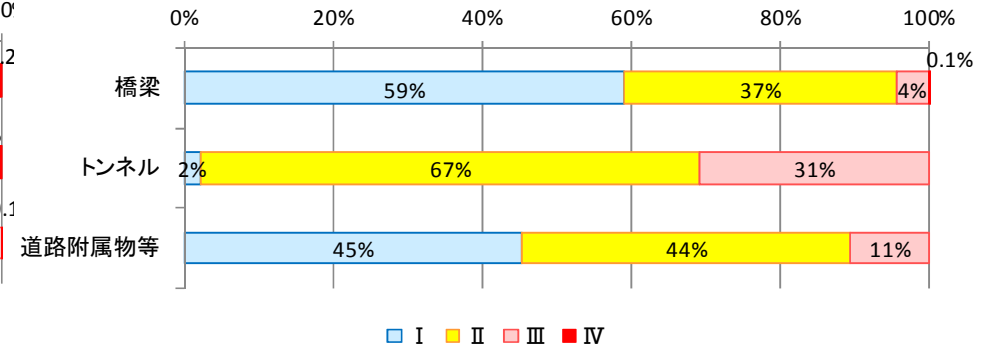
(1) 橋梁・トンネル・道路附属物等

○ 判定区分の割合については、橋梁：Ⅰ 35%・Ⅱ 53%・Ⅲ 12%・Ⅳ 0.2%、
トンネル：Ⅰ 2%・Ⅱ 51%・Ⅲ 46%・Ⅳ 1.1%、道路附属物等：Ⅰ 36%・Ⅱ 53%・Ⅲ 11%・
Ⅳ0.1%となりました。

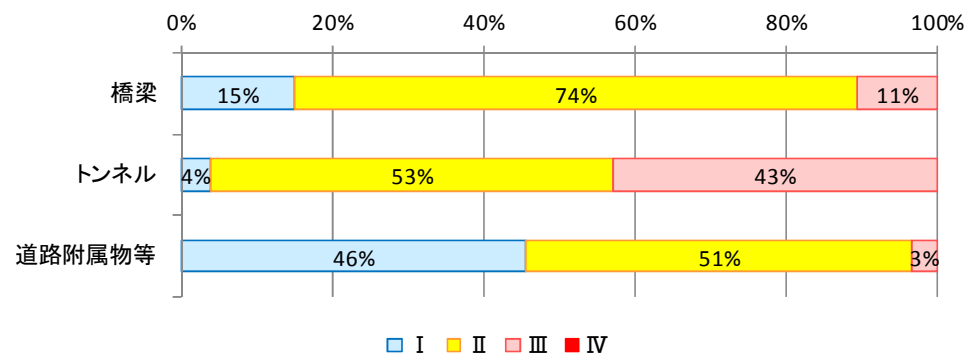
【近畿 全道路管理者分】



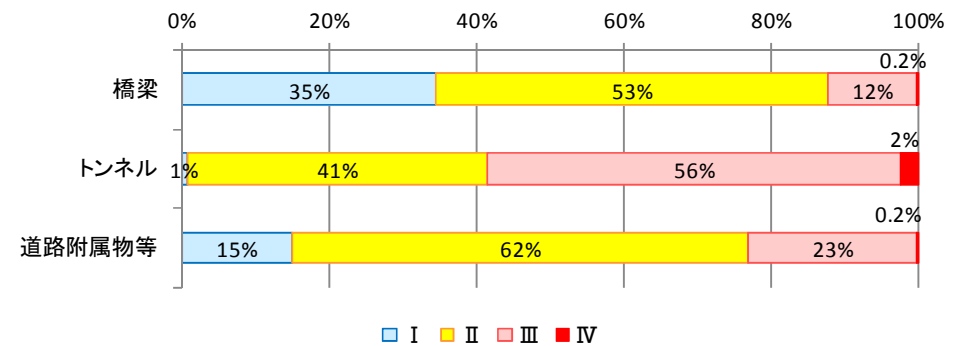
【近畿 国土交通省管理分】



【近畿 高速道路会社管理分】



【近畿 地方公共団体等管理分】

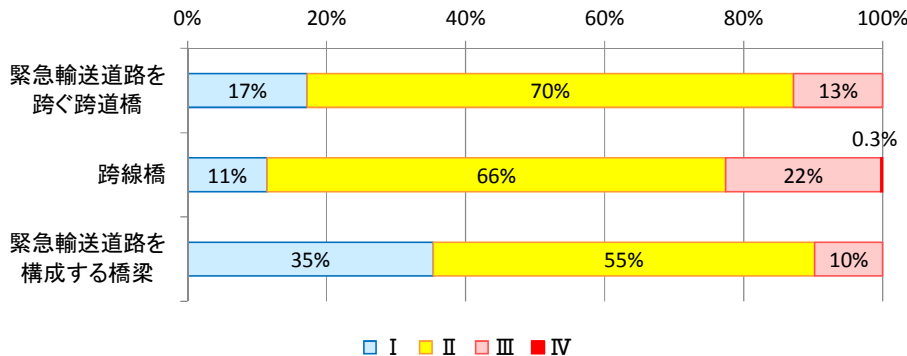


近畿管内の点検結果について（平成26・27 年度）

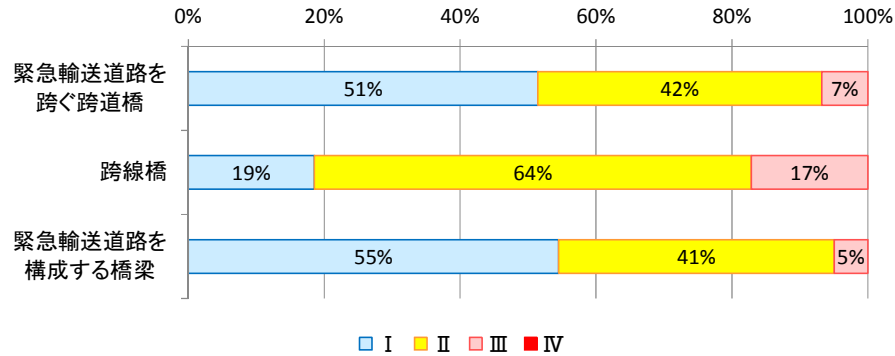
（2）最優先で点検すべき橋梁

○ 判定区分の割合については、緊急輸送道路を跨ぐ跨道橋：I 21%・II 67%・III 12%、
 跨線橋：I 21%・II 57%・III 22%・IV 0.1%、緊急輸送道路を構成する橋梁：I 34%・
 II 54%・III 12%・IV 0.01%となりました。

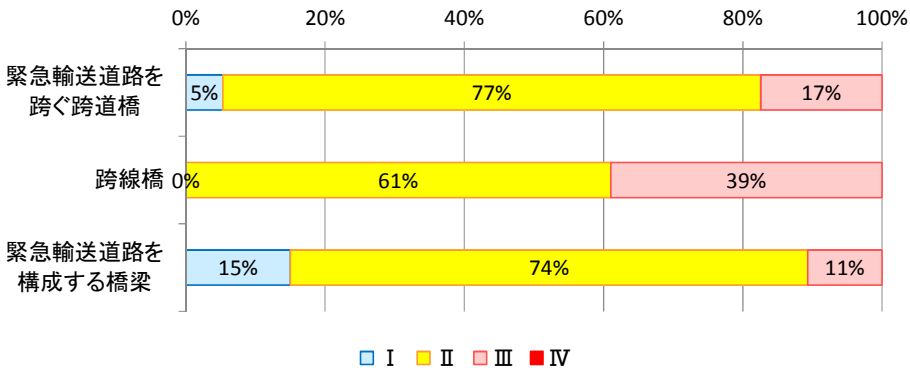
【近畿 全道路管理者分】



【近畿 国土交通省管理分】



【近畿 高速道路会社管理分】



【近畿 地方公共団体等管理分】

